

平成30年度研究課題外部評価結果

研究テーマ名	研究概要	外部評価点 (5点満点)	評価者のコメント(要約)	研究担当者からの返信コメント(要約)
放電プラズマ焼結法によるエネルギー産業へ向けた新製品の開発	放電プラズマ焼結法による新製品の開発を行う。特に、エネルギー問題の解決に向けて、再生可能エネルギーの採用や電力機器の高効率化などの動きが世界的に活発になっている中、これに関連する技術的課題を解決し得る製品の提供を目指す。	4.25	<ul style="list-style-type: none"> ・風力発電の落雷被害を抑える技術として重要です。是非、企業と共に製品化を成功して下さい。 ・国内だけでなく、海外にもアピールできるような製品に仕上げてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業として製品を広く販売できるよう、性能アピールも含めて積極的にやりたいと思います。 ・海外で導入の進んでいる洋上風車は、地上風車以上のメンテナンスフリーが求められていますので、本テーマによる製品のアピールは高いと期待しています。
メタボローム解析を用いた食品成分の評価技術の確立	メタボローム解析を用いた食品成分の評価技術を確立する。これにより従来の手法に比べて迅速かつ網羅的に食品の成分分析が可能となり、品質評価や加工技術への応用が期待できる。	4.06	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ消費者・生産者がわかりやすい表示を作り、普及していただきたい。 ・中小企業が事業としてやっていけるための最善の策はどのようなものでしょう。 ・データを蓄積することによって、今後の指導に生かせるようにしてほしい。 ・新製品開発への活用が期待できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本技術を活用して、商品の特徴を消費者に分かりやすい形で表示できる方法を企業とともに開発していきます。 ・中小企業に対しては、センターで依頼分析、機器開放等の受け入れ態勢を構築し、企業の技術支援、研究開発に利用して頂けるようにします。 ・本研究を通して、評価技術の向上およびその成果の企業への普及を推進していきます。 ・企業との共同研究を推進し、新製品開発への活用を図ってまいります。
食品素材を原料とした製剤化に関する研究	一般食品素材、食品未利用部位、加工残渣などを原料とし、抽出、分離、発酵、物質変換、精製などの一連の加工技術を開発し、高付加価値な食品製剤や化粧品製剤を製造する。	3.94	<ul style="list-style-type: none"> ・「素材へのこだわり」といったときに何が強みか、特徴なのかを示し、地域のブランド製品の客観的な目安として示せると面白いと思います。 ・海外で競争力のある製品も開発できればいいと思います。 ・今後、県内で製剤化等に対応できる企業が増えるよう、開発・指導をしていただければありがたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原料についてはよく厳選し、特徴のある製品を開発できるように取り組みたいと思います。 ・研究目標を達成し、県内企業での実用化を目指したいと思います。 ・本テーマで挙げている目標をクリアした後、発展的な広がりを持てるように取り組んでいきたいと思っています。
分散めっき装置・液制御に関する研究	様々な形状の部品表面にめっきと共に機能粉を共析させ、摺動性、耐摩耗性、触媒性能などの機能を付与させるための分散めっき装置を作製し、機能粉の分散液制御により、あらゆる形状の部品に対し分散めっきする事を目指す。	3.69	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスするには機能の絞り込みが必要に思われますが、いかがでしょうか。 ・なかなか難しい技術のようですが、成果を出して県内企業に移転できれば、産業として大きく発展する可能性もあり、ぜひ早く成果を出していただきたい。 ・県内にめっき企業は少ないようですが、成果があがっても波及効果は少ないのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、ニーズの高い平ヤスリ、研削棒、円柱摺動部品に絞って、分散粉末サイズを変えて取り組みます。 ・まずはターゲットサンプルへの分散めっきをマニュアル化し、簡単な作業にして県内企業への普及を進めていきます。 ・めっきは自動車部品、機械部品、電子電気、建築、装飾、医療とあらゆる製品で使用されています。これらの関連企業を含めて成果の波及を進めていきます。
IoT及びデータ収集分析技術による県内企業製品の再開発	既存の県内企業製品に、センサ機能と通信機能を有したIoT(モノのインターネット)機器を組み込み、センサから観測されるデータをリアルタイムに収集・分析を行うシステムの研究開発を行う。開発するシステムのデータ分析結果を活かした製品の付加価値化、新機能開発を目指す。	4.06	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、IoTの普及ということだと理解いたしましたが、島根県の産業に広く使えるとなるとよいかと思います。 ・生産現場でもIoTによる機械の故障や材料の不足通知等に使えるようになることがたいです。 ・センターとしてもセミナー等で広く理解をしてもらえるような活動も期待しています。 ・県内企業がIoTを採用した時に、初期支援することによりIoT技術が企業へ取り込めるキッカケ作りになると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各社のビジネスモデルに応じて、利用するIoT技術や収集データが異なりますので、各社のニーズに合わせた研究開発を進めてまいります。 ・県内企業製品や生産現場の生産性向上にIoT技術を活用できるよう取り組みます。 ・ある程度技術蓄積ができた段階で、セミナーや研究発表等による技術普及活動についても検討したいと思います。 ・企業の最初のハードルを越えるための初期支援ができるよう取り組みます。